

ふるさと未来講座「歴史」福井①

福井震災の記憶を子どもたちへ

日 時:令和8年5月23日(土) 14:00~15:30

講 師:木曜お堀の会 会長 平野 和夫 氏

福井工業高等専門学校

未来社会デザイン工学科都市・建築系教授 吉田 雅穂 氏

会 場:福井県織協ビル 602会議室



前半では、平野先生や吉田先生による講演が行われました。被災された方の震災での経験や、震災当日の福井市街地の写真をご紹介いただきました。また、木曜お堀の会による「片腕の彫刻家」の紙芝居も上演され、福井震災の様子が臨場感あふれる形で披露されました。後半では、三井住友信託銀行福井支店 向かい側にある、「震災メモリアルスポット」に移動し、現存する震災遺構の見学を行いました。今回の講座で震災の記憶や教訓を学ぶ貴重な体験となりました。

受講された方々からは「福井地震について今まで見たり聞いたりしていたことがつながり、詳しく知ることができました。」「ふるさとのことを知る機会を設けてくださり、ありがとうございました。」などの感想が寄せられました。

震災の教訓を多くの人に広め、伝えましょう！



「姪っ子たちに、地震はいつ起こるかわからない災害であるため、防災用品の準備が大切であることを伝えたい」



「福井震災の実態を家族に知らせたい（50代男性）」

「福井で大きな地震があったことを家族や子どもに伝えた（男性）」



「亡き母からは、『震災時とっさに家を飛び出した瞬間に家が自分たちと逆側に崩れたため生き残り、その後洪水を体験し、それでも生き抜いた』ことをきいていました。講座を受けて、震災がどれだけ大変なことであったかを知り、私たちがここに生きていることも奇跡であり、また、震災の記憶を忘れ去るのではなく、福井が不死鳥とよばれるような立ち直りや、これからの私たちの生き方について改めて考えさせる講座だった、ということを家族や友人に伝えたい（50代女性）」

「友人に福井震災を紹介するメモリアルスポットが福井市の市街地にあり、そこにある震災説明板の内容や加藤先生の像など、講座で学んだ内容を伝えたい。また福井市防災センターには地震を体験できる起震装置があることや教育博物館には大森地震計があることも教えたい。（男性）」



震災の教訓を多くの人に広め、伝えましょう！

「坂井市、福井市、鯖江市にかけての広域にわたる福井震災は、阪神淡路大震災よりも人口調整すると被害が大きかったことや地盤強化対策をしておいた三井信託銀行の建物やセーレン記念館が残ったこと、加藤恒勝先生は自分の腕を切り落とす事を自分で決断したこと メモリアルスポットの子供の像や震災説明板のこと、知り得たたくさんの事を駅前に住む住民として伝えていきたいと思いました（70歳代女性）」

「地域の多数の人たちに被災の状況を伝えたいと思いました。（男性）」

「次世代の友人や、同世代の友人に、揺れている現代の日本では、どこで震災に遭遇するか分からないこと、そのため予め準備しておくこと、いつ起こるかわからない震災に備えて、色んなことを知らなければならない＝知識の蓄積を伝えたいと思いました。（70歳代女性）」

たくさんのコメント、ありがとうございました。東日本大震災や阪神・淡路大震災に次ぐ、戦後3番目に大きな被害となった福井震災。1948年（昭和23年）6月28日に起こったこの震災の記憶と教訓が受講者の皆さんのコメントとして、次世代の方々に少しでも拡散し、福井県民はもちろんのこと、多くの人々に今後の防災への備え、意識の高まりにつながってほしいと思います。